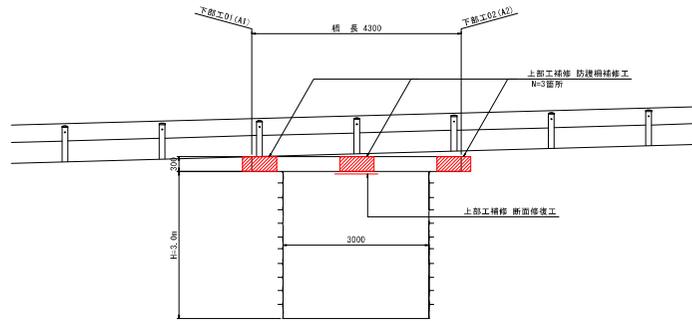
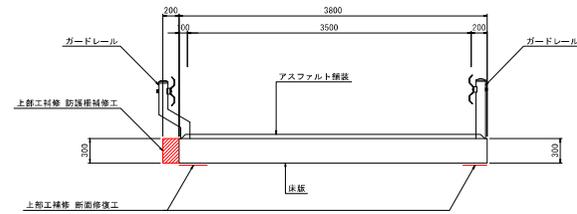


橋梁補修計画一般図 S=1:50

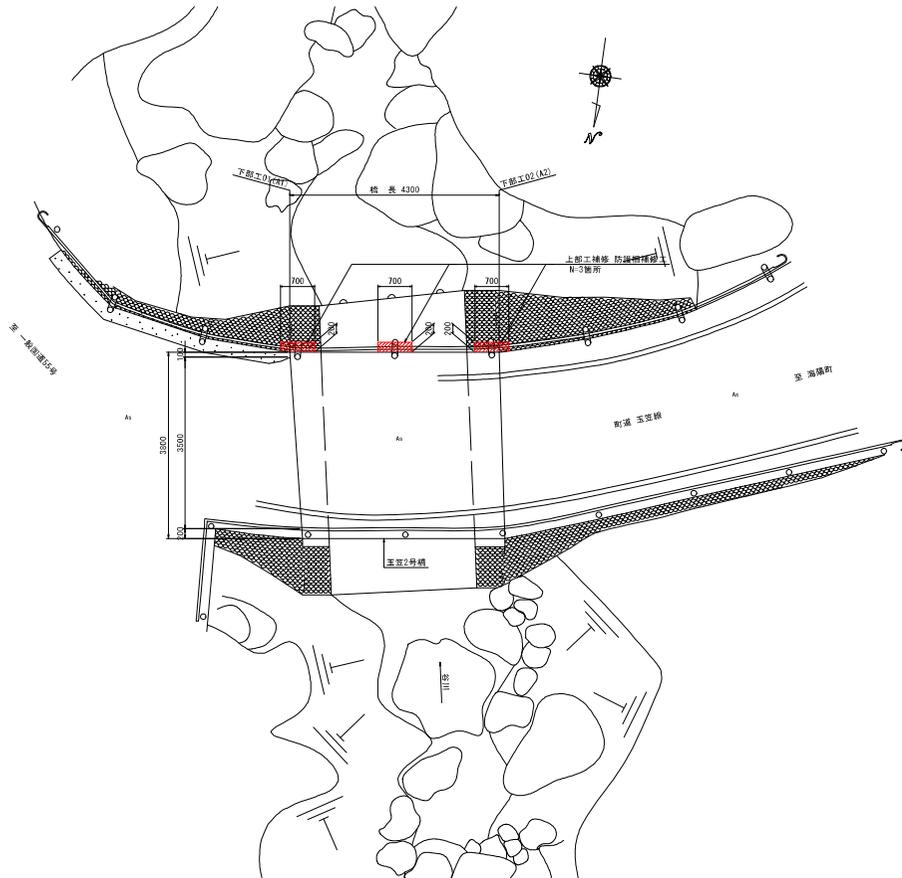
側面図



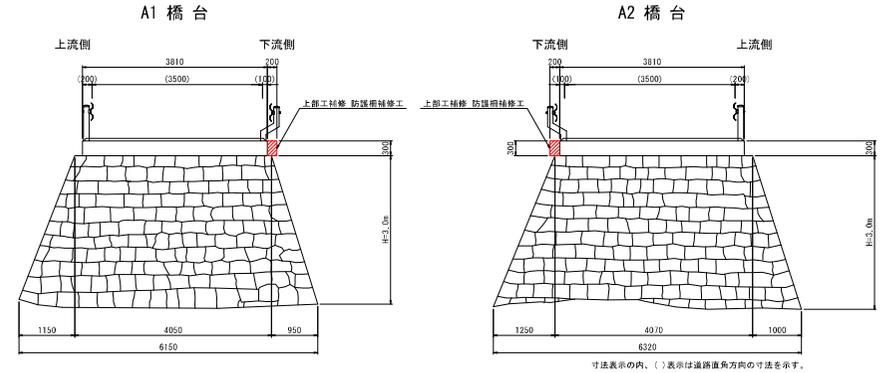
断面図 S=1:30



平面図



正面図



寸法表示の内、()表示は道路直角方向の寸法を示す。

現橋諸元

路線名	町道 五笠線
橋名	五笠2号橋
架設年度	1960年(昭和35年) 旧1
自動車両車	二等線(11~14t) 旧1
形式	鉄筋コンクリート単跨陸橋
上橋表	4.300m
橋有効経典	3.500m
全幅	3.800m
舗装	アスファルト舗装
躯体形式	縁石積み橋台
基礎形式	直挿基礎
適用基準	昭和31年(1956)コンクリート標準示方書 旧1

※1:道路台帳および橋梁点検調査より取得

補修工法一覧

部位・部材	劣化状況	補修工法	備考
上部工	剝離・鉄筋露出	前面修復工	左官工法
	変形・欠損	防護柵補修工	取付部補修、防護柵ポルト交換

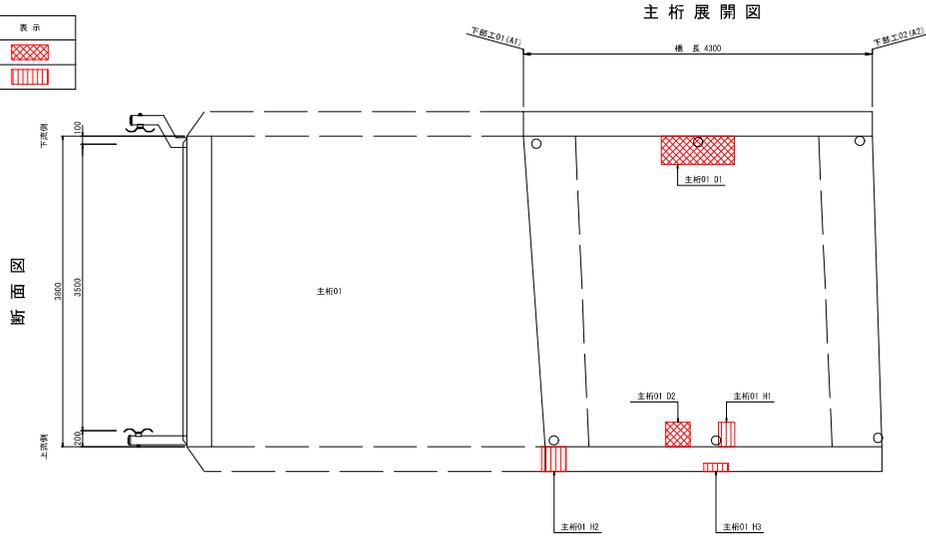
五笠2号橋

工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 五笠2号橋 五笠2号橋修繕工事		
路線名等	町道五笠線		
工事箇所	牟婁町		
図面名	橋梁補修計画一般図		
縮尺	図示	図番番号	1 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

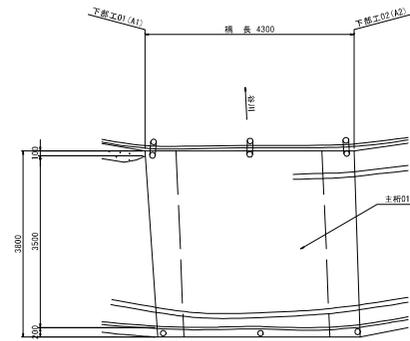
補修詳細図 (1/3) S=1:30

上部工補修 断面修復工

補修工法	表示
断面修復工 (左官工法) 鉄筋処理: 有	
断面修復工 (左官工法) 鉄筋処理: 無	

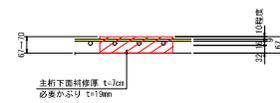


位置図 S=1:50



補修厚根拠図 S=1:10

RC床版橋 主桁



注記
必要がふりは、既設部載の算出値を用いた中の最大値を示す。
設計図面に表示している鉄筋径と異なる場合は、両計算を実施すること。
既設がふりが小さく必要がふりが確保できない場合は、補修モルタル厚を増やし、必要がふりを確保する。

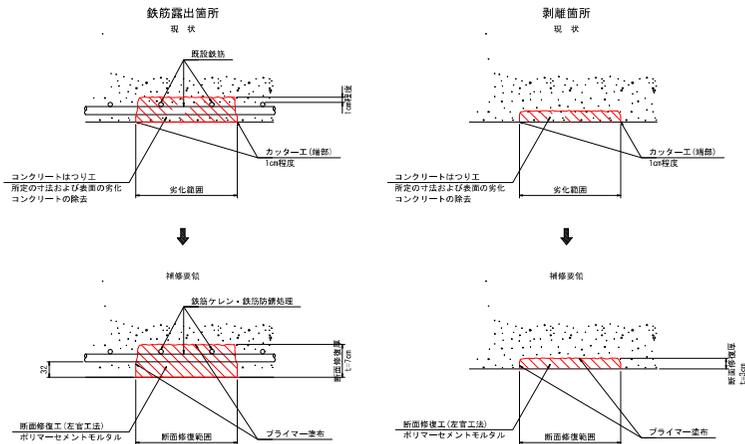
※ 断面修復工
・劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう層間に深さ10mm程度コンクリートカッターにより切目を入れ、入念に行う。
・はつり作業においては、振動が既設コンクリート・鉄筋に与える悪影響や、騒音が周辺環境に与える影響について十分留意し施工すること。
・工事による河川内へのコンクリート塊落下を防ぐため、シート等で十分な養生を行うこと。
・最小がぶり
「FAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案)」を基に、以下に示す最小値を必要がふりを確保すること。
最小がぶり=Max [a: 最大鉄筋径の呼び径
b: 最大径の鉄筋の呼び径から最大鉄筋径の呼び径を控除した値
c: 気中の場合30mm or 水中又は土中の場合17mm] + 3mm (施工公差)

・断面修復材料
無収縮ポリマーセメントモルタルとし、「表面修復工法 設計施工指針(案)(工法別マニュアル編) 平成17年 土木学会」に示す断面修復材料の規格を満足するものとする。

力学的性能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同等な強度特性を有すること
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.0N/mm ² 以上)

断面修復工 (左官工法) 詳細図 S=1:5

既設コンクリート断面欠損部



断面修復工 (左官工法) 断面積集計表

部材番号	幅 (m)	幅 (m)	深さ (m)	数量	単位	適用
主桁	主桁01 D1	0.900	0.350	0.315	m ²	
	主桁01 D2	0.300	0.300	0.090	m ²	
小計				0.405	m ²	
合計				0.405	m ²	

断面修復工 (左官工法) 断面積集計表

部材番号	幅 (m)	幅 (m)	深さ (m)	数量	単位	適用
左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理: 無						
主桁	主桁01 H1	0.200	0.300	0.060	m ²	
	主桁01 H2	0.300	0.300	0.090	m ²	
	主桁01 H3	0.300	0.100	0.030	m ²	
小計				0.180	m ²	
合計				0.180	m ²	

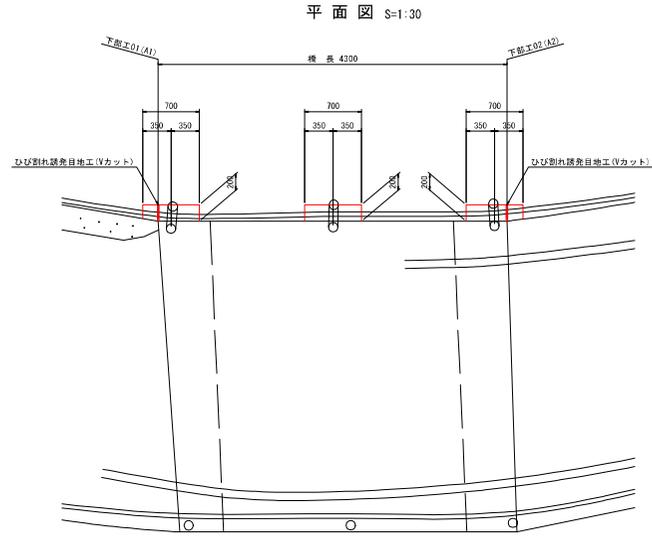
断面修復工 (左官工法) 集計表

左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理: 有	V = 0.024 m ³ (設計数量)
左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理: 無	V = 0.005 m ³ (設計数量)

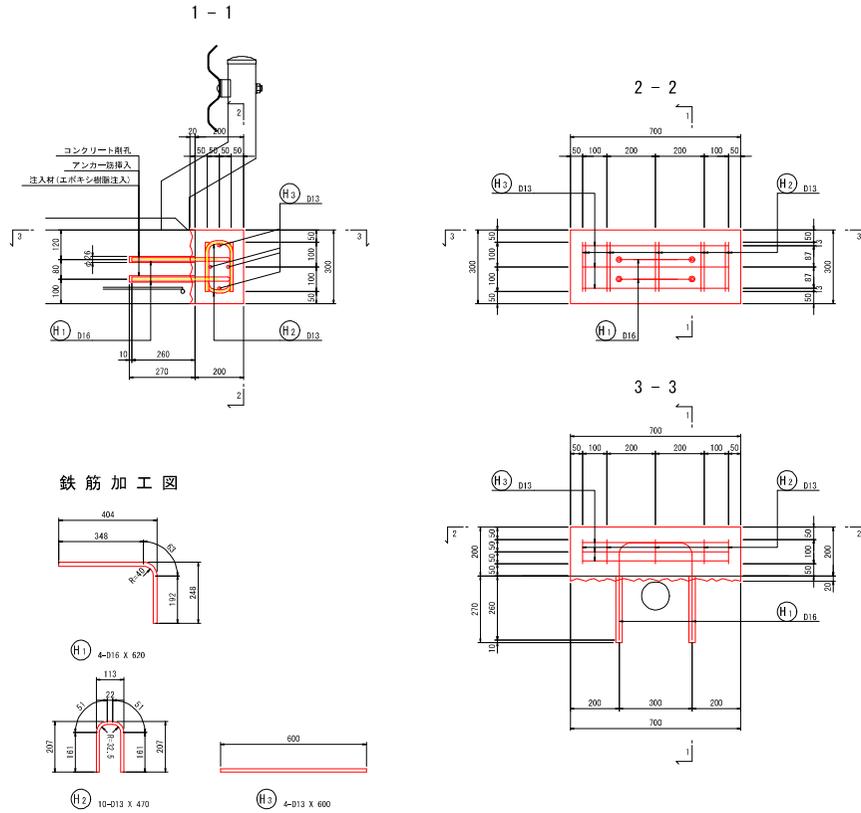
主要2号橋

工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業
海線名等	至聖寺橋 至聖寺橋補修工事
工事箇所	牟婁町
図面名	補修詳細図 (1/3)
縮尺	図 示 図面番号 2 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント
事業者名	牟婁町 建設課

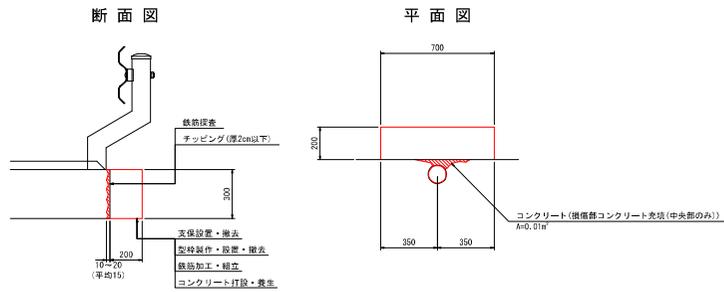
補修詳細図 (2/3) S=1:30
上部工補修 防護柵補修工



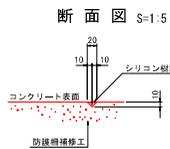
配筋図 S=1:10



一般図 S=1:15



設置位置により取付部形状が異なるため、外形寸法は適宜変更すること。



Vカットは橋長位置の2箇所に設置する。
上面・側面・下面の新設部に施工を実施する。

鉄筋質量表 防護柵補修1箇所当り数量

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	柄	
H1	D16	620	4	1.56	0.97	4	┌	
H2	D13	470	10	0.995	0.47	5	┌	
H3	D13	600	4	0.995	0.60	2	┌	
							11	
合計 D16							4 kg	
D13							7 kg	
総質量							11 kg	

材料規格表

名称	規格・寸法
コンクリート	$\sigma_c = 24 \text{N/mm}^2$ 24-12-25(20)
鉄筋	S2345

注記)
1) 既設構造寸法等を参照の上、施工を実施すること。
2) アンカー高位置の実現時は、設計計算を実施すること。
3) アンカー削孔時には鉄筋探索を実施し、既設鉄筋を切断しないこと。

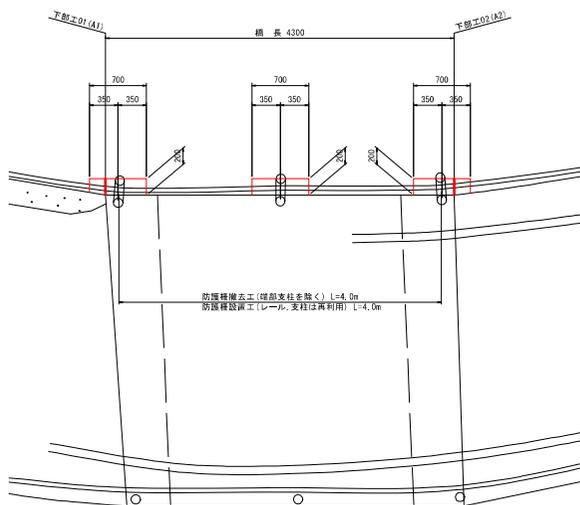
三管2号橋

工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 三管2号橋 三管2号橋修繕工事		
路線名等	町道玉笠線		
工事箇所	牟婁町		
図面名	補修詳細図(2/3)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

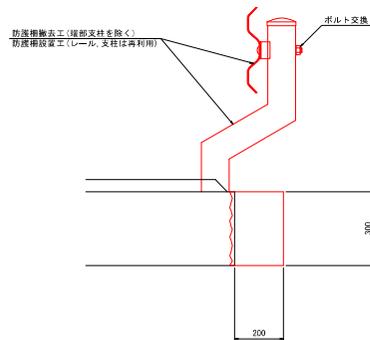
補修詳細図 (3/3) S=1:30

上部工補修 防護柵補修工

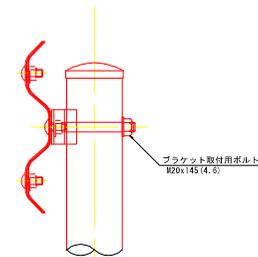
平面図 S=1:30



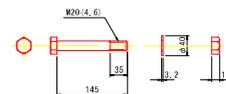
断面図 S=1:10



取付詳細図 S=1:10

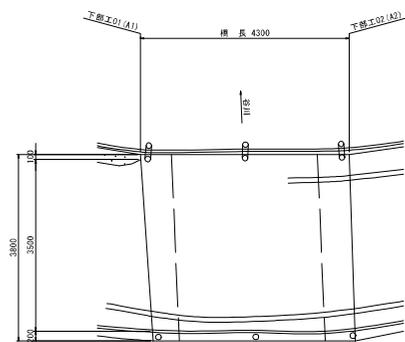


ブラケット取付用ボルト S=1:5



注記)
 ・ 本作業は、中央部支柱基礎が損傷していることより、中央部支柱およびレールを一時撤去し、コンクリート基礎補修の施工および支柱を当初の位置に復旧し、防護柵の復旧(再利用)を実施することを想定している。
 ・ 設計段階で想定している部品交換は、支柱・レール固定部のボルトナットである。
 ・ 中央部支柱基礎の復旧図は、補修詳細図(2/3)を参照すること。

位置図 S=1:50



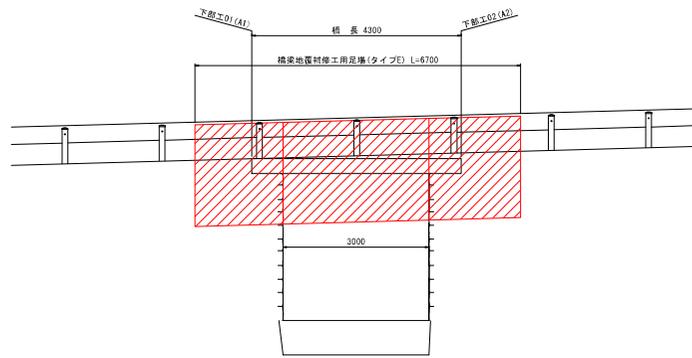
材料表 ガードレール規格:C種

名称	寸法	単位	合計	備考
ブラケット取付用ボルト	M20(4.6)	組	1	

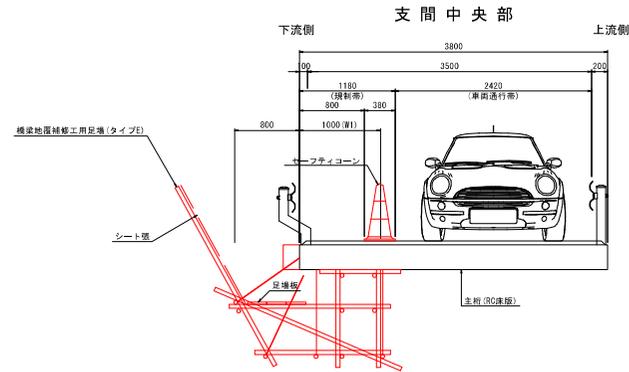
五宮2号橋			
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業		
路線名等	五宮2号橋	五宮2号橋補修工事	
工事箇所	町道五宮線	牟婁町	
図面名	補修詳細図(3/3)		
縮尺	図示	図番番号	4 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

仮設工参考図 S=1:50

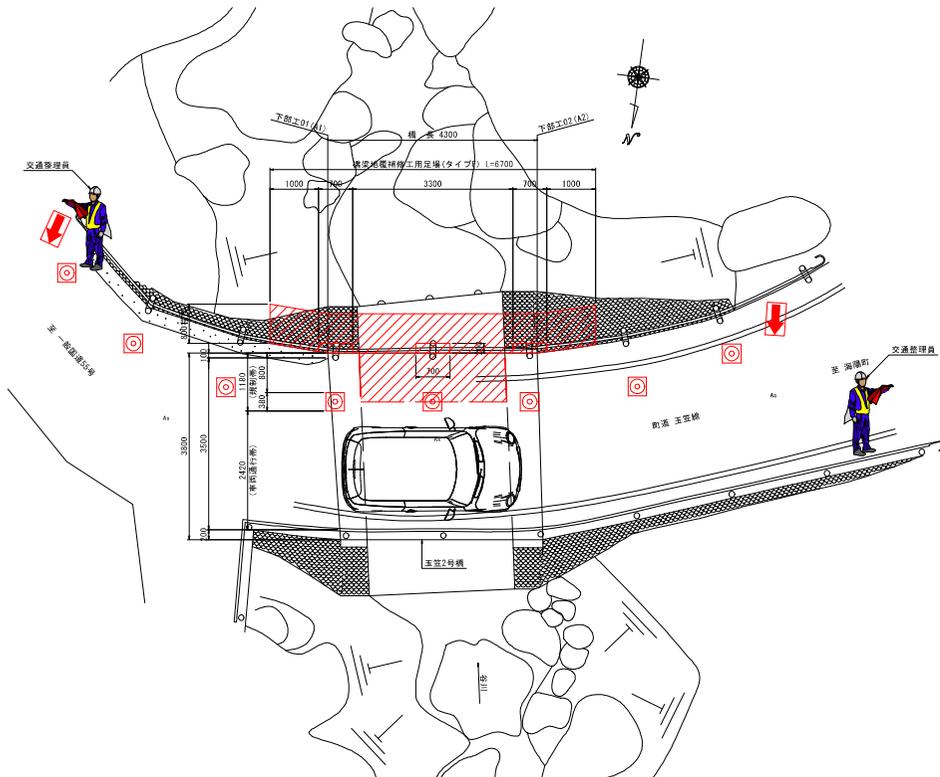
側面図



断面図 S=1:30



平面図

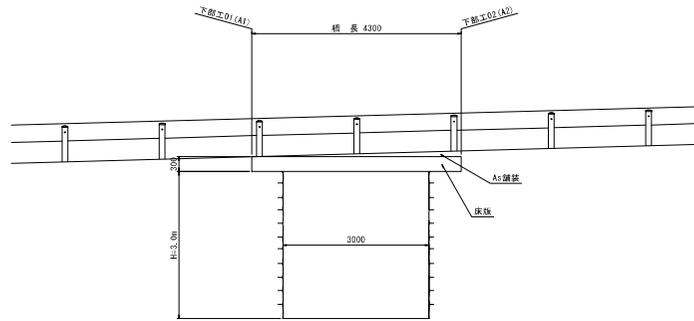


注記)
 ・本計画は参考図である。施工においては現地条件や施工時期等を考慮し、安全な一般車両通行に努めること。
 ・設計時の計画では、交通整理員を配置して実施する通行規制(片側交互通行)は、足場工設置・撤去時を想定している。

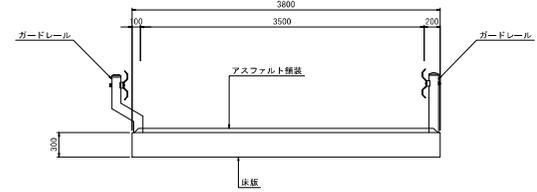
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 玉置2号橋 玉置3号橋修繕工事		
路線名等	国道53号線		
工事箇所	牟婁町		
図面名	仮設工参考図		
縮尺	図示	図番番号	5 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

既設橋梁一般図 S=1:50

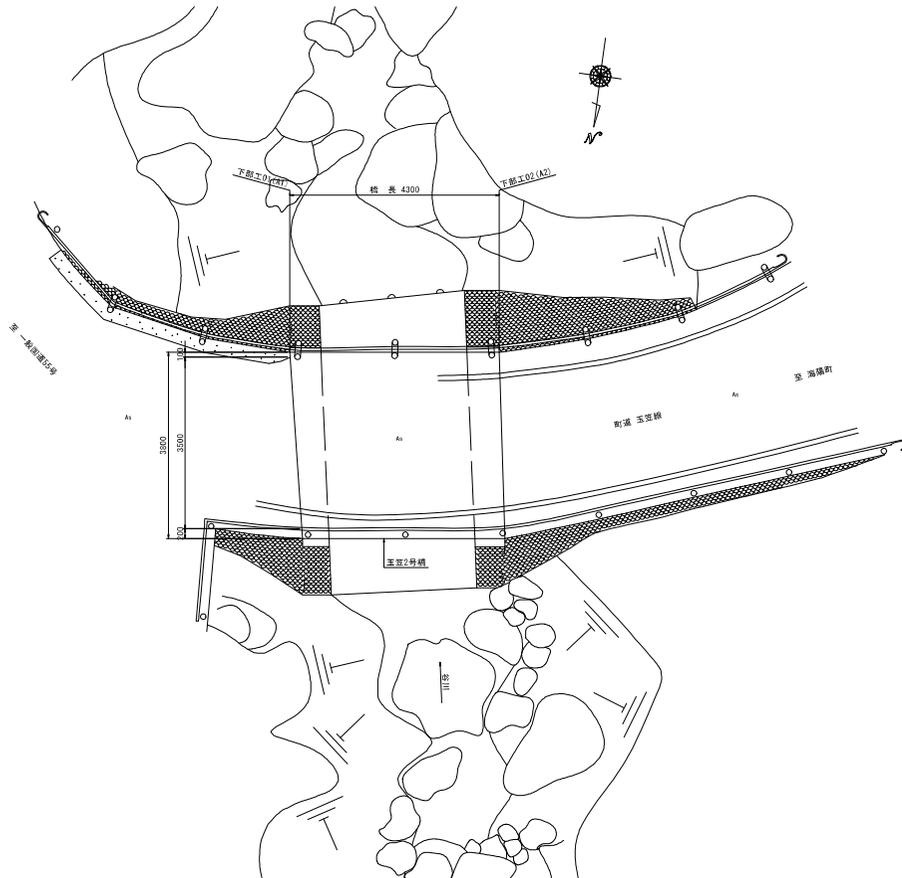
側面図



断面図 S=1:30

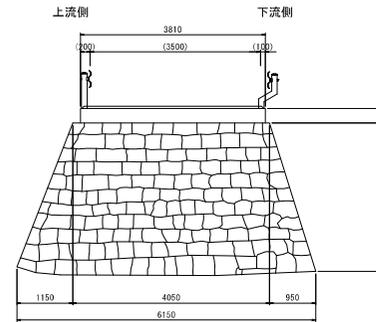


平面図

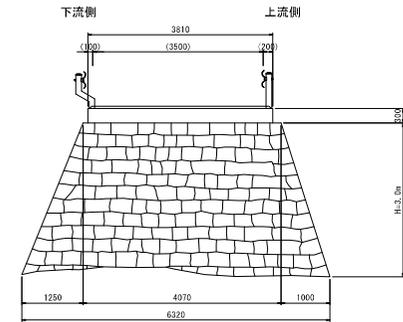


正面図

A1 橋台



A2 橋台



寸法表示の内、()表示は道路直角方向の寸法を示す。

現橋諸元

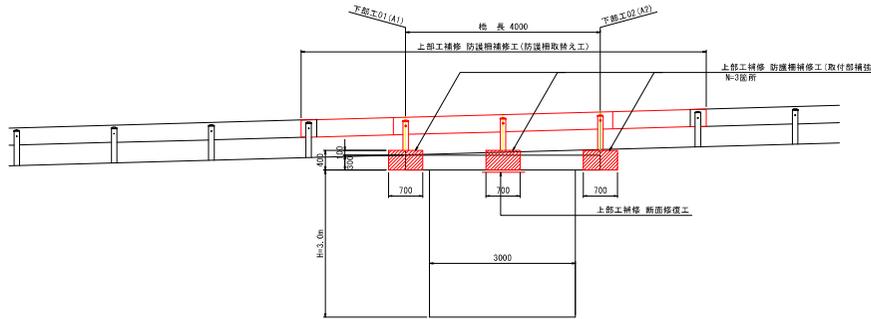
路線名	町道 玉笠線
橋名	玉笠2号橋
架設年度	1960年(昭和35年) 昭1
自動車荷重	二等橋(1L-4t) 昭1
形式	鉄筋コンクリート単和床橋
上総	長 4,300m
部有効幅員	3,500m
全幅	3,800m
舗装	As舗装
橋体形式	線石積み結合
下部基礎形式	直接基礎
適用基準	昭和31年(1956)コンクリート標準示方書 昭1

※1:道路台帳および橋梁点検調査より抜粋

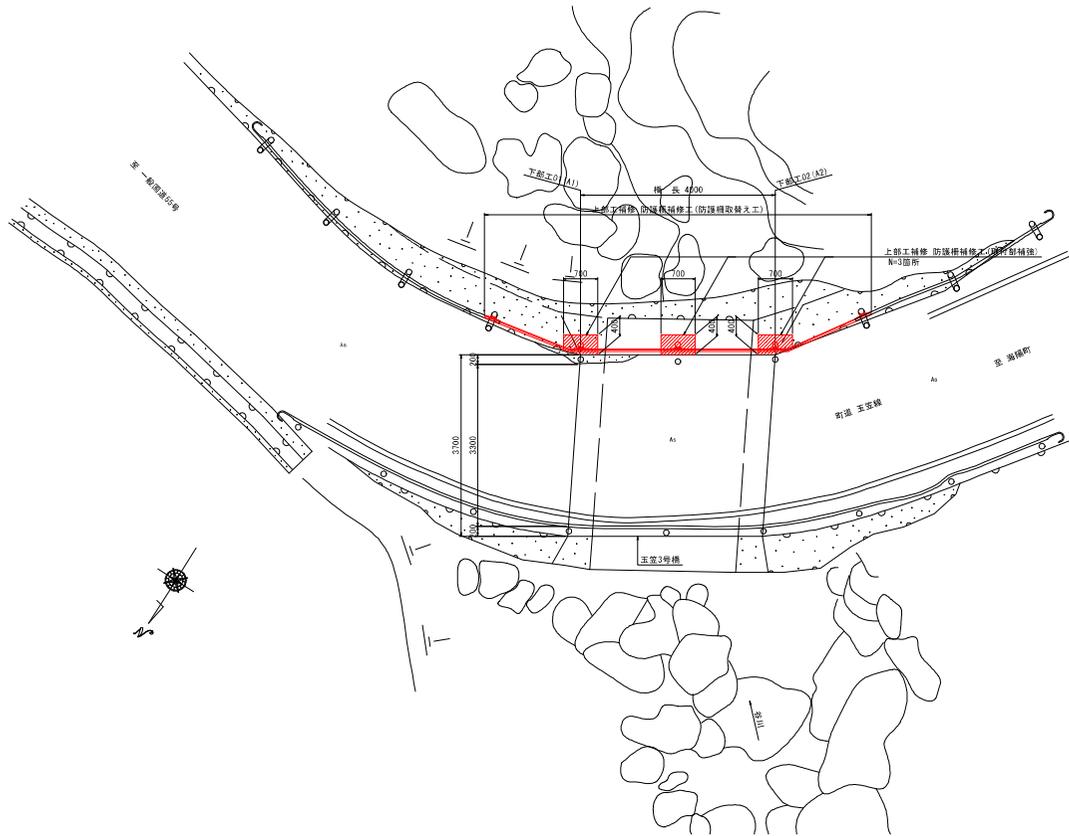
玉笠2号橋			
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業	玉笠2号橋 玉笠2号橋橋脚工事	
路線名等	町道玉笠線		
工事箇所	牟婁町		
図面名	既設橋梁一般図		
縮尺	図示	図面番号	6 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

橋梁補修計画一般図 S=1:50

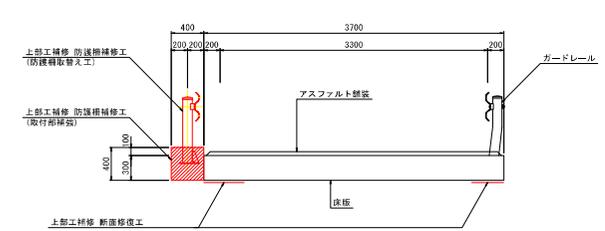
側面図



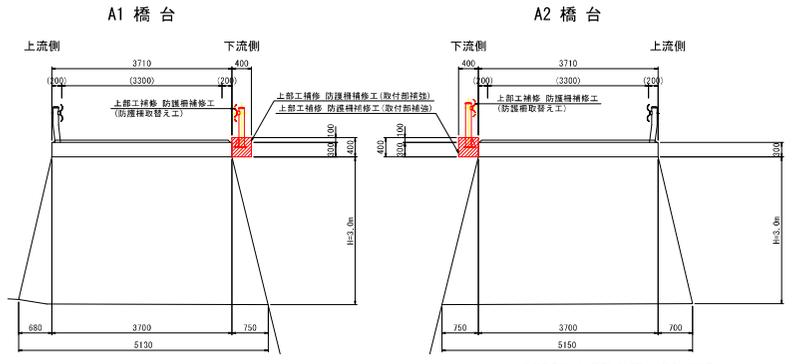
平面図



断面図 S=1:30



正面図



現橋諸元

路線名	町道 玉笠線
橋名	玉笠3号橋
架設年度	1966年(昭和35年)※1
自動車荷重	二等橋(L=14.1f)※1
形式	鉄筋コンクリート単脚床桁橋
総長	4,000m
有効幅員	3,300m
全幅	3,700m
舗装	アスファルト舗装
下部工	崖形式橋台
基礎形式	直接基礎
適用基準	昭和31年(1956)コンクリート標準示方書※1

※1: 道路台帳および構造台帳設置より抜粋

補修工法一覧

部位・部材	補修工法一覧		
	劣化状況	補修工法	備考
上部工	剥離・鉄筋露出	断面修復工	左官工法
	変形・欠損	防護柵補修工	取付部補修、防護柵取替え工

玉笠3号橋			
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業		
	玉笠2号橋 玉笠3号橋補修工事		
路線名等	町道玉笠線		
工事箇所	牟婁町		
図面名	橋梁補修計画一般図		
図尺	図示	図面番号	7 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

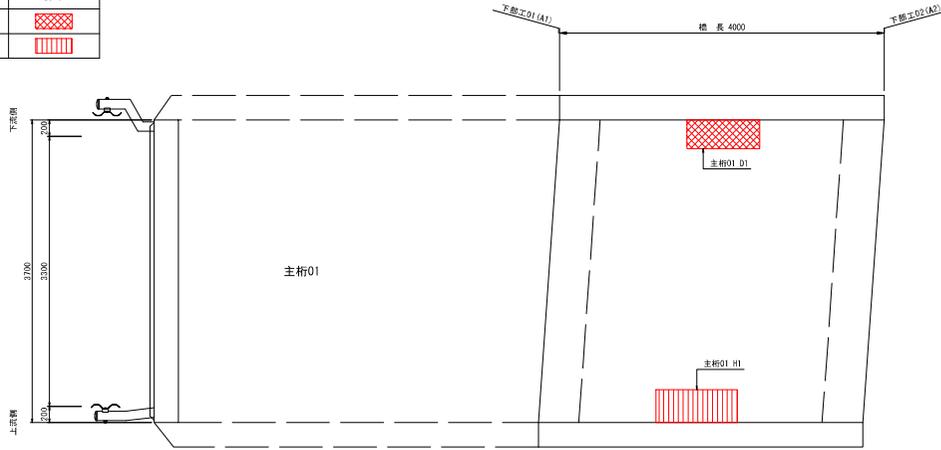
補修詳細図 (1/7) S=1:30

上部工補修 断面修復工

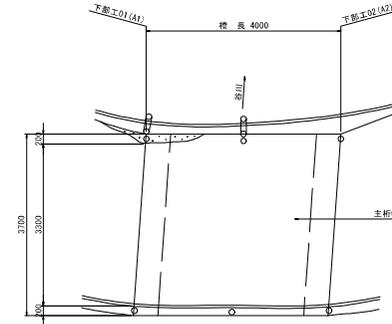
主桁展開図

補修凡例

補修工法	表示
断面修復工 (左官工法) 鉄筋防錆処理 有	
断面修復工 (左官工法) 鉄筋防錆処理 無	

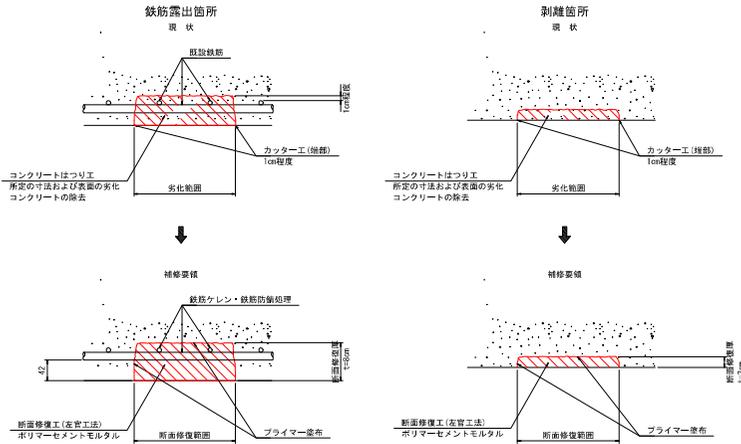


位置図 S=1:50



断面修復工 (左官工法) 詳細図 S=1:5

既設コンクリート断面欠損部



断面修復工 (左官工法) 断面積集計表

図材番号	幅 (m)	縦 (m)	深さ (m)	数量	単位	適用
左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有						
主桁 主桁01 D1	0.900	0.500		0.450	m2	
小計				0.450	m2	
合計				0.450	m2	

断面修復工 (左官工法) 断面積集計表

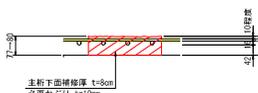
図材番号	幅 (m)	縦 (m)	深さ (m)	数量	単位	適用
左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 無						
主桁 主桁01 H1	1.000	0.400		0.400	m2	
小計				0.400	m2	
合計				0.400	m2	

断面修復工 (左官工法) 集計表

左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有	V = 0.036 m³ (設計数量)
左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 無	V = 0.012 m³ (設計数量)

補修厚根拠図 S=1:10

RC床版橋 主桁



注記
必要かふりは、断面記載の算出式を用いた中の最大値を示す。
設計断面に表示している鉄筋径と異なる場合は、再計算を実施すること。
既設かふり厚が小さく必要かふりが確保できない場合は、補修モルタル厚を増厚し、必要かふりを確保する。

※ 断面修復工
・劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ10mm程度コンクリートカッターにより切筋目線を入れ、人工に施工する。
・はつり作業においては、振動が既設コンクリート・鉄筋に与える悪影響や、騒音が周辺環境に与える影響について十分留意し施工すること。
・工事による周辺へのコンクリート飛落防止のため、シート等で十分な養生を行うこと。
・最小かぶり
「PM系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート補修物の補修・材強に関する設計・施工マニュアル(第1版)」を基に、以下に示す最小必要かぶりを確保すること。
最小かぶり=Max $\left[\begin{array}{l} a: \text{最外縁鉄筋の呼び径} \\ b: \text{最大径の鉄筋の呼び径から最外縁鉄筋の呼び径を控除した値} \\ c: \text{気中の場合9mm or 水中又は土中の場合7mm} \end{array} \right] + 3\text{mm (施工公差)}$
・断面修復材料
解凍耐久ポリマーセメントモルタルとし、「断面修復工法 設計施工指針(第1版) [工法別マニュアル編] 平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

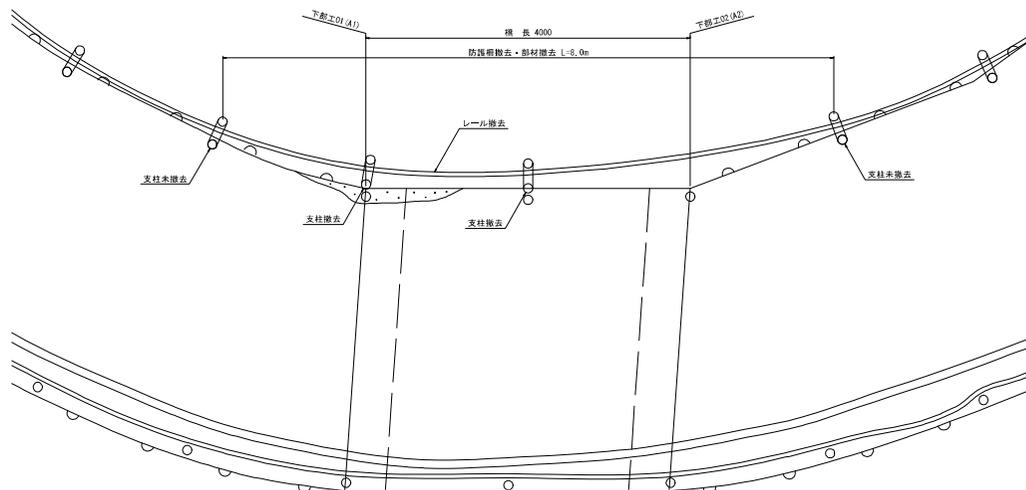
力学的性能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	縦横コンクリートと同等な強度特性を有すること
作業強度	縦横コンクリートと一体となること (1.0N/mm ² 以上)

変更3号指

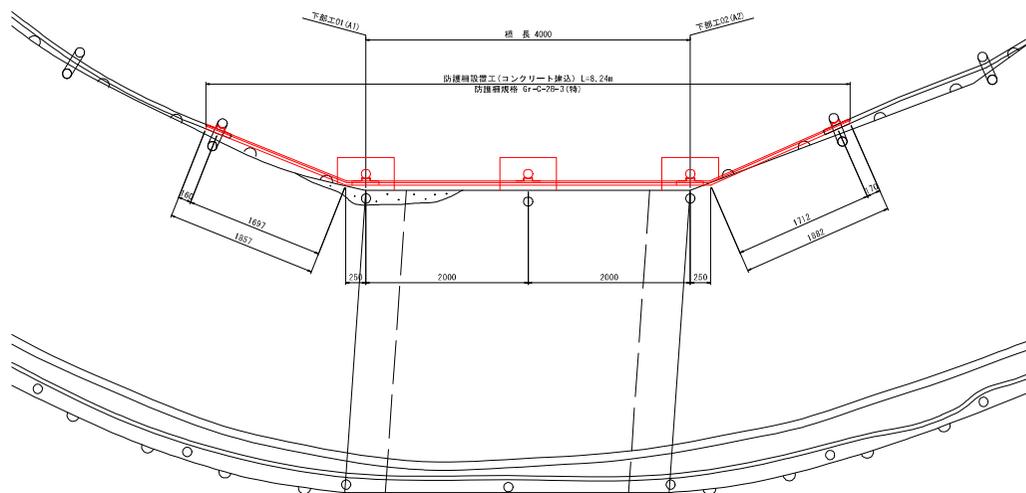
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 至宜寺橋 至宜寺橋補修工事
路線名等	町道至宜線
工事箇所	牟婁町
図面名	補修詳細図(1/7)
縮尺	図 示 図面番号 8 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント
事業者名	牟婁町 建設課

補修詳細図 (2/7) S=1:30
上部工補修 防護柵補修工

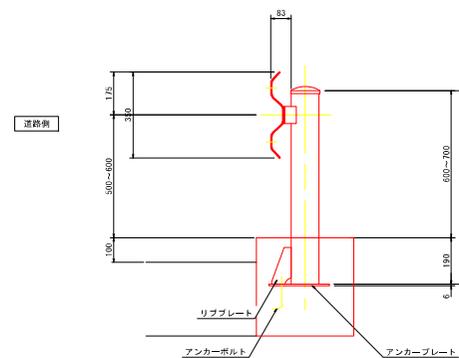
平面図
防護柵撤去図



平面図
防護柵設置図



ガードレール(Gr-C-2B-3(特))
断面図 S=1:10

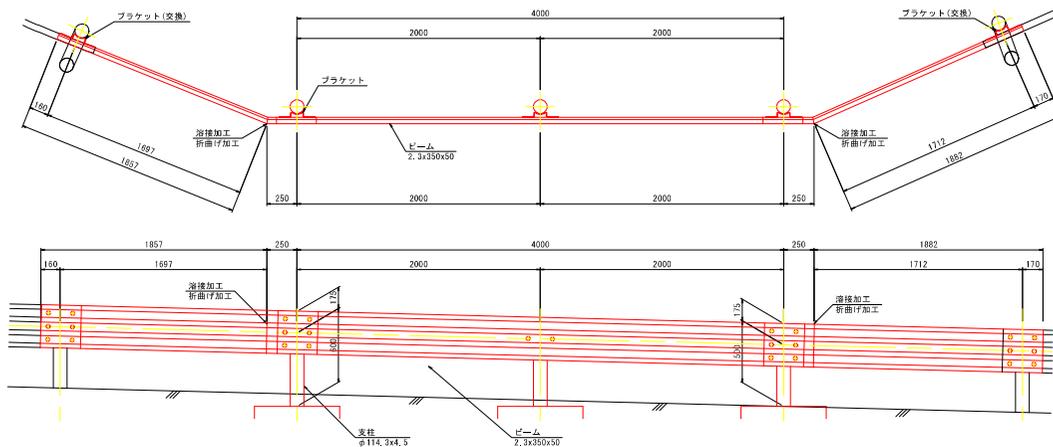


(注記)
 ・構造寸法については製法に合わせ、部材を製作すること。
 ・支柱基部への湧水を避けるため、コンクリート土留に4%程度の排水切配を設けること。

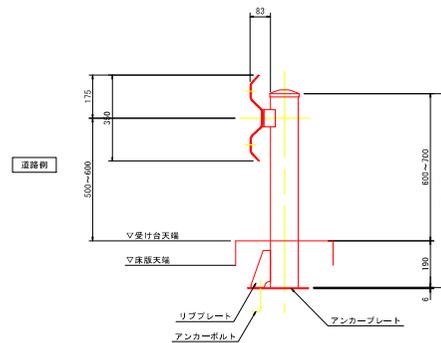
至聖3号橋			
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業		
路線名等	至聖3号橋	至聖3号橋修繕工事	
工事箇所	町道至聖線		
図面名	補修詳細図(2/7)		
縮尺	図示	図番番号	9 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	舟越町 建設課		

補修詳細図 (3/7) S=1:20
上部工補修 防護柵補修工

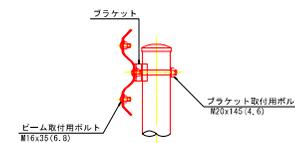
組立図 S=1:20



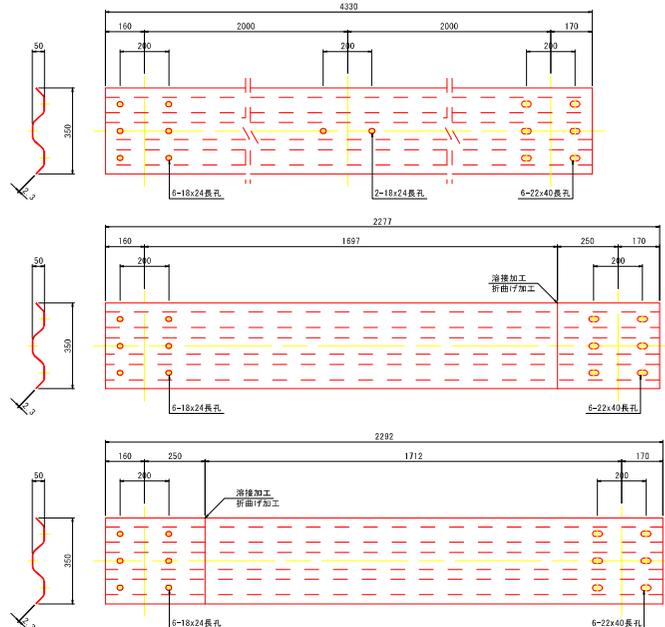
断面図 S=1:10



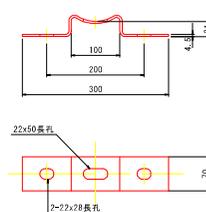
取付詳細図 S=1:10



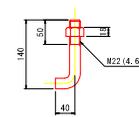
ビーム S=1:10



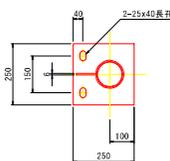
ブラケット S=1:5



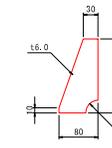
アンカーボルト S=1:5



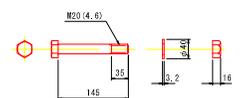
アンカープレート S=1:10



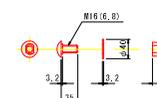
リブプレート S=1:5



ブラケット取付用ボルト S=1:5



ビーム取付用ボルト S=1:5



材料表 ガードレール規格:Gr-C-2B-3 (特)

名称	寸法	単位	合計	備考
支柱	φ114.3x4.5, L=790~890	個	3	白色
アンカープレート	250x250x6	個	3	
リブプレート	150x80x6	個	3	
アンカーボルト	M22 (4, 6)	個	3	
ビーム	L=4.0m用	個	1	白色
ビーム	L=4.0m用加工	個	1	白色
ビーム	L=4.0m用加工	個	1	白色
ブラケット		個	5	
ブラケット取付用: N, R	M20 (4, 6)	個	5	
ビーム取付用: N, R	M16 (6, 8)	個	26	

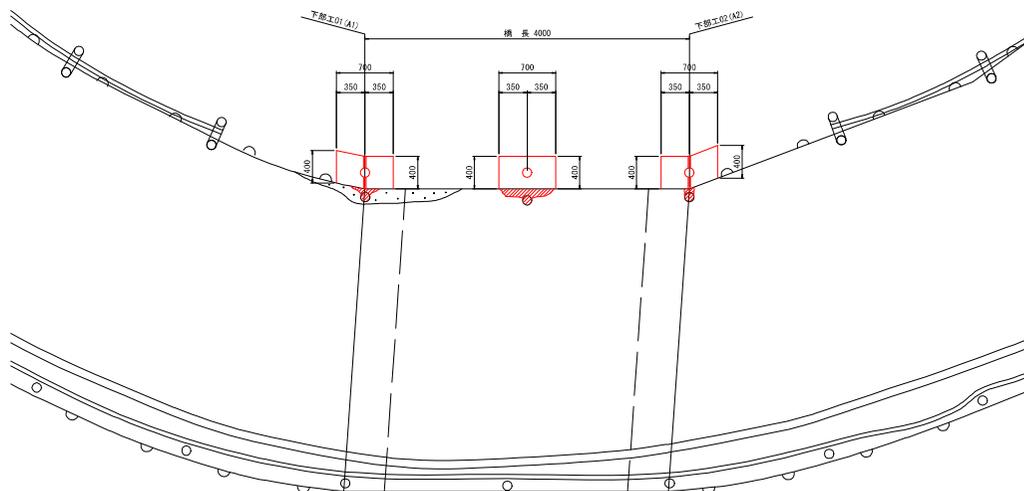
構造寸法については、現地寸法を確認の上、製作すること。
支柱高は縦断勾配を考慮し適宜変更すること。

変更3号図

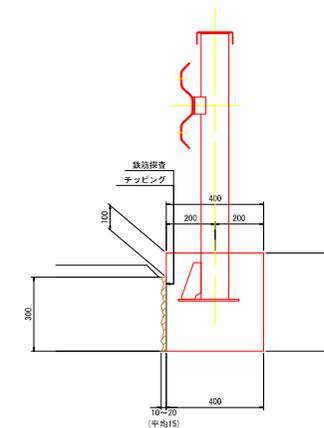
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 変更2号図 変更3号図補修工事
路線名等	町道笠原線
工事箇所	牟婁町
図面名	補修詳細図 (3/7)
縮尺	図 示 図面番号 10 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント
事業者名	牟婁町 建設課

補修詳細図 (4/7) S=1:30
上部工補修 防護柵補修工

平面図 S=1:30

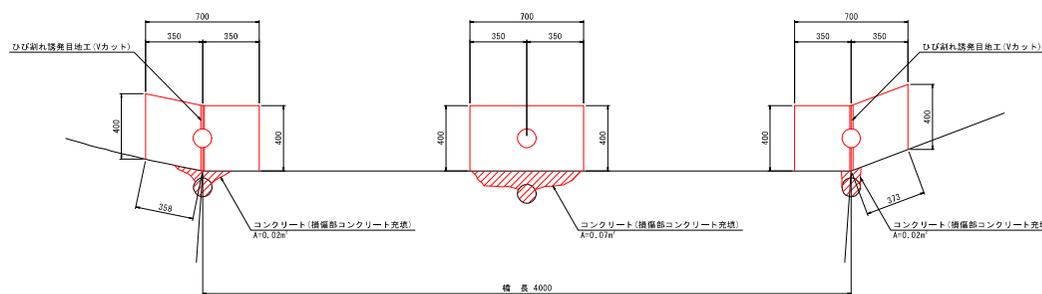


断面図 S=1:10



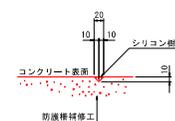
注記)
 ・構造寸法については現場寸法に合わせ、部材を製作すること。
 ・支柱基部への湧水を避けるため、コンクリート基礎に4%程度の排水勾配を設けること。

平面図 S=1:15



設置位置により取付形状が異なるため、外形寸法は適宜変更すること。

断面図 S=1:5



Vカットは橋脚位置の2箇所に設置する。
 上面・側面・下面の新設割に施工を実施する。

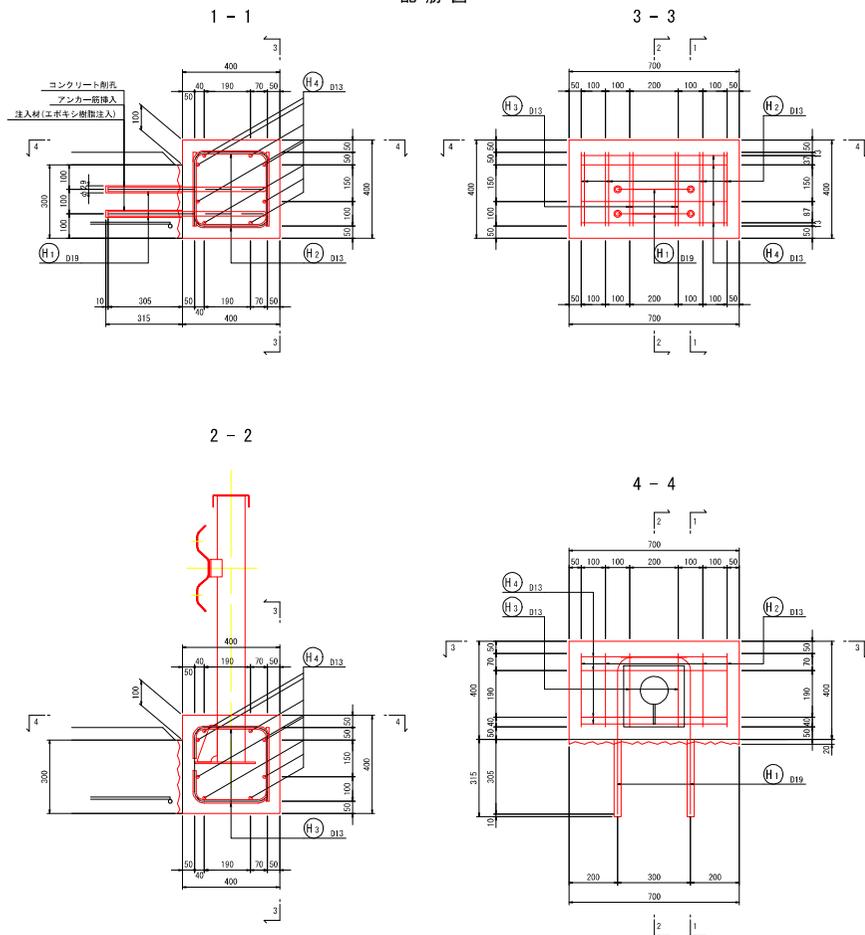
主要3号橋			
工事名	令和7年度	道路メンテナンス事業	
路線名等	国道2号線 五宮交差点改良工事		
工事箇所	牟婁町		
図面名	補修詳細図 (4/7)		
総尺	図示	図面番号	11 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

補修詳細図 (5/7) S=1:10

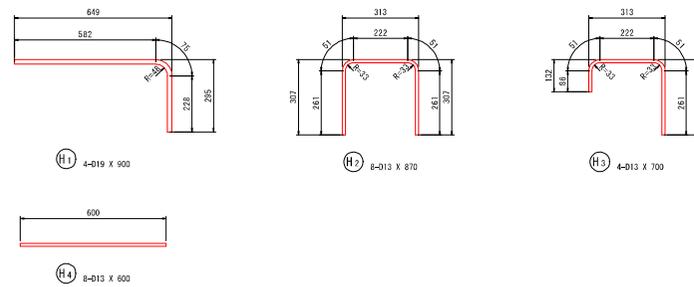
上部工補修 防護柵補修工

防護柵基礎タイプ1

配筋図



鉄筋加工図



鉄筋質量表

防護柵基礎(タイプ1)基当り数量						
記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量
H1	D19	900	4	2.25	2.03	8
H2	D13	870	8	0.995	0.87	7
H3	D13	700	4	0.995	0.70	3
H4	D13	600	8	0.995	0.60	5
						23
合計 D19				8 kg		
D13				15 kg		
総質量				23 kg		

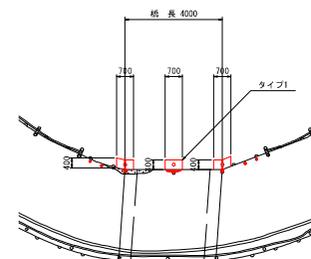
材料規格表

名称	規格・寸法
コンクリート	$\sigma_c = 24 \text{N/mm}^2$ 24-12-25 (20)
鉄筋	SD345

注記

- 1) 既設構造物と同等の品質の上、施工を実施すること。
- 2) アンカー筋位置の変更時は、設計計算を実施すること。
- 3) アンカー筋挿入時には鉄筋検査を実施し、既設鉄筋を切断しないこと。

位置図 S=1:100



玉置3号橋

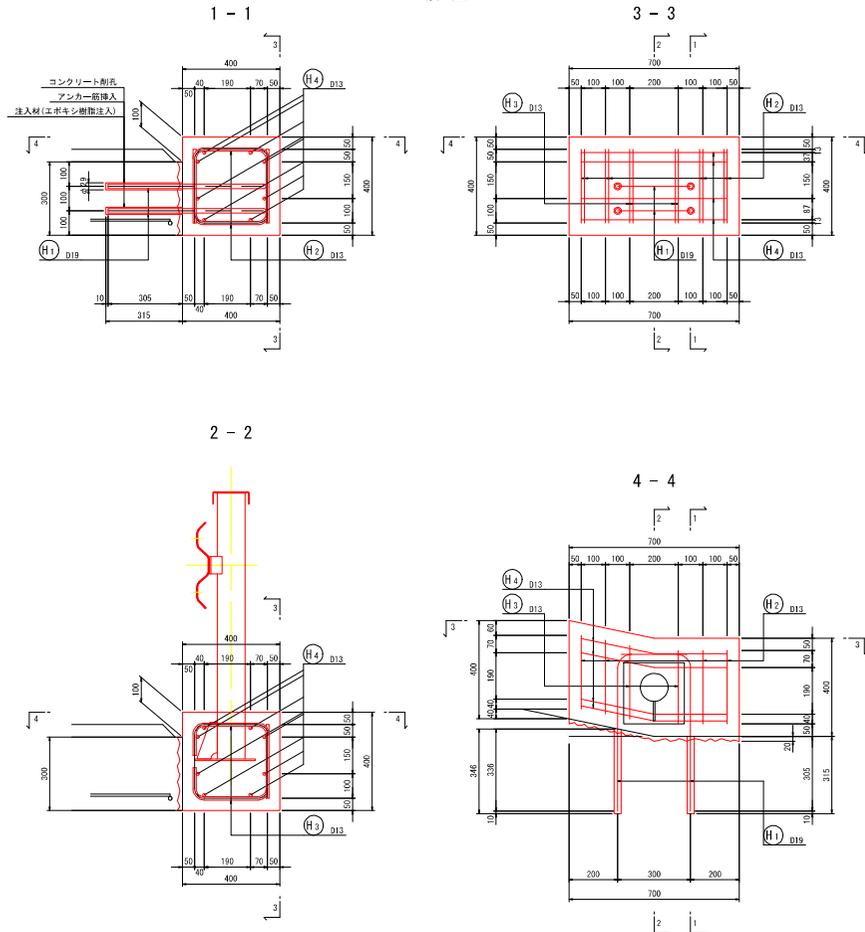
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 玉置2号橋 玉置3号橋補修工事
路線名等	町道玉置線
工事箇所	牟婁町
図面名	補修詳細図(5/7)
縮尺	図示 図面番号 12 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント
事業者名	牟婁町 建設課

補修詳細図 (6/7) S=1:10

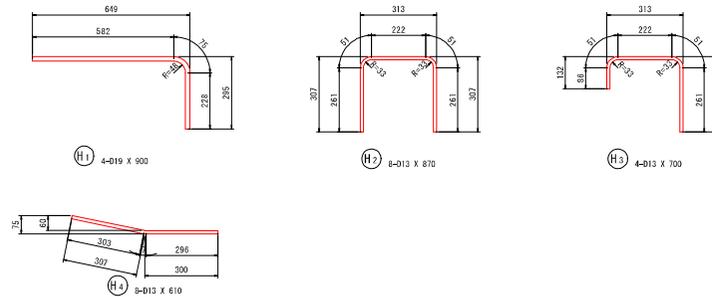
上部工補修 防護柵補修工

防護柵基礎タイプ2

配筋図



鉄筋加工図



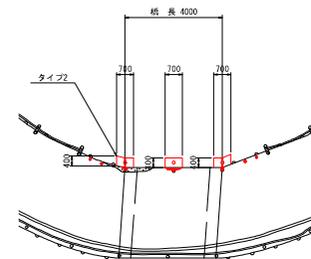
鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	繪表
H1	D19	900	4	2.25	2.03	8	┌─┐
H2	D13	870	8	0.995	0.87	7	┌─┐
H3	D13	700	4	0.995	0.70	3	┌─┐
H4	D13	610	8	0.995	0.61	5	┌─┐
						23	
合計 D19				8 kg			
D13				15 kg			
総質量				23 kg			

名 称	規格・寸法
コンクリート	$\sigma_c=24\text{N}/\text{mm}^2$ 24-12-25 (20)
鉄 筋	SD345

- 注記)
 1) 既設構造寸法等を調査の上、施工を実施すること。
 2) アンカー筋位置の変更時は、設計計算を実施すること。
 3) アンカー筋孔には鉄筋探査を実施し、既設鉄筋を切断しないこと。

位置図 S=1:100



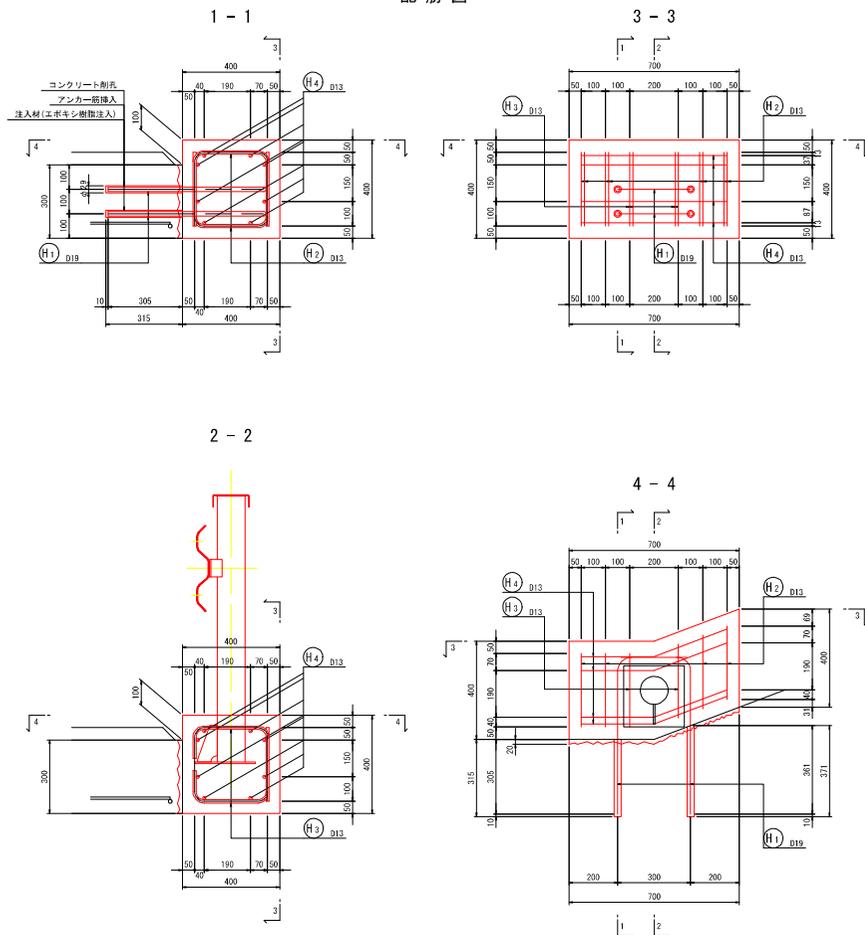
玉笠3号橋			
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業		
路線名等	玉笠2号橋 玉笠3号橋補修工事		
工事箇所	車線町		
図面名	補修詳細図 (6/7)		
縮尺	図 示	図番番号	13 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	有線町 建設課		

補修詳細図(7/7) S=1:10

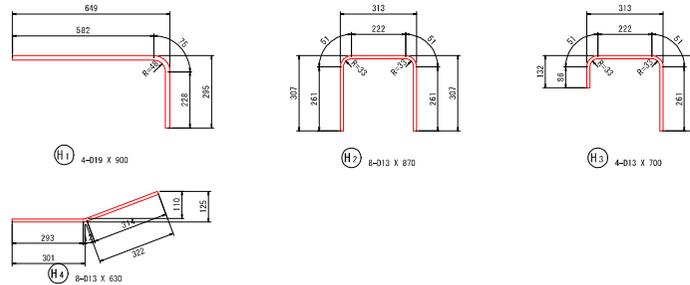
上部工補修 防護柵補修工

防護柵基礎タイプ3

配筋図



鉄筋加工図



鉄筋質量表

防護柵基礎(タイプ1)基当り数量						
記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量
H1	D19	900	4	2.25	2.03	8
H2	D13	870	8	0.995	0.87	7
H3	D13	700	4	0.995	0.70	3
H4	D13	630	8	0.995	0.63	5
						23
合計 D19				8 kg		
D13				15 kg		
総質量				23 kg		

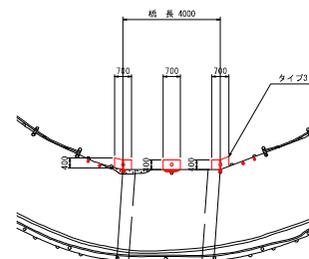
材料仕様表

名称	規格・寸法
コンクリート	$\sigma_c=24\text{N/mm}^2$ 24-12-25 (20)
鉄筋	SD345

注記

- 1) 既設構造物と同等の品質の上、施工を実施すること。
- 2) アンカー筋位置の変更時は、設計計算を実施すること。
- 3) アンカー筋挿入時には鉄筋検査を実施し、既設鉄筋を切断しないこと。

位置図 S=1:100

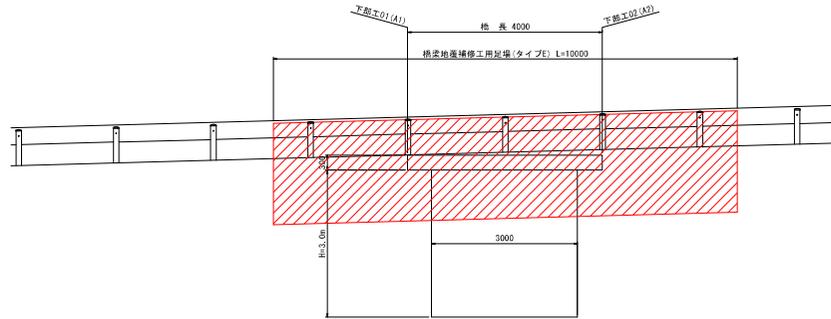


玉置3号橋

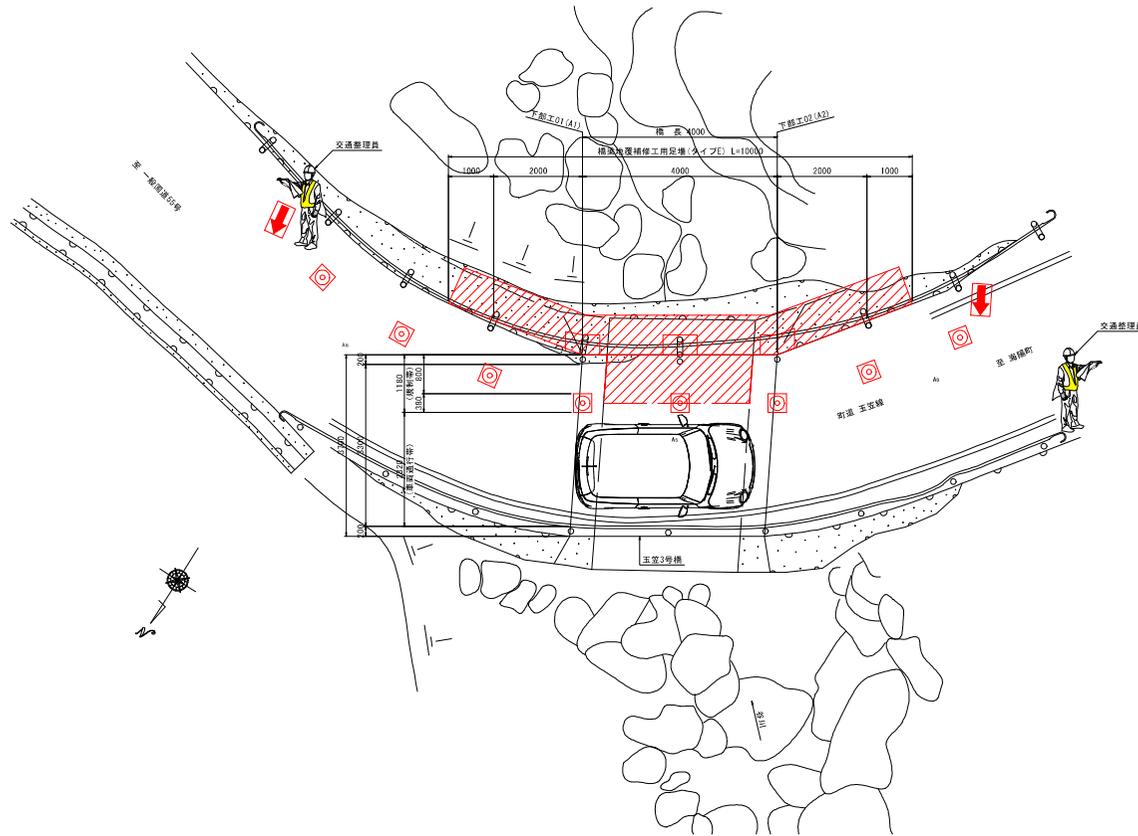
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業
路線名等	玉置2号橋 玉置3号橋補修工事
工事箇所	新讓玉置線
図面名	車線町
図面名	補修詳細図(7/7)
縮尺	図示
図番	図番番号
図番	14 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント
事業者名	宍戸町 建設課

仮設工参考図 S=1:50

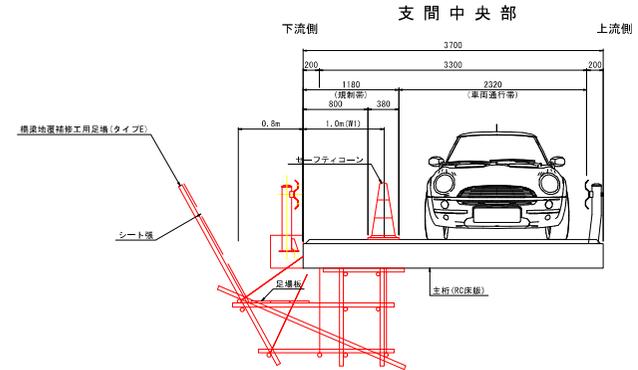
側面図



平面図



断面図 S=1:30



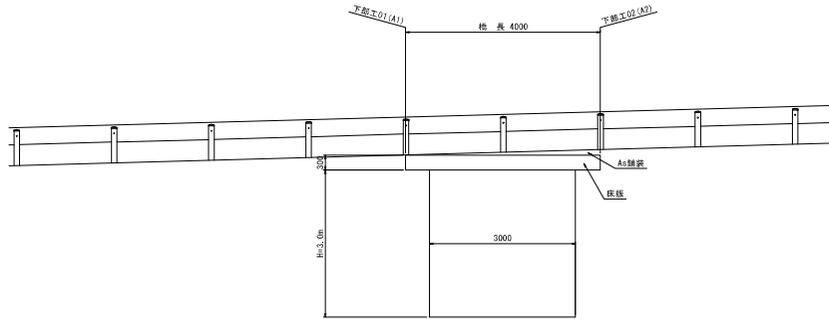
注記

- ・本計画は参考図である。施工においては現地条件や施工時期等を考慮し、安全な一般車両通行に努めること。
- ・設計時の計画では、交通整理員を配置して実施する通行規制(片側交互通行)は、足場工設置・撤去時を想定している。

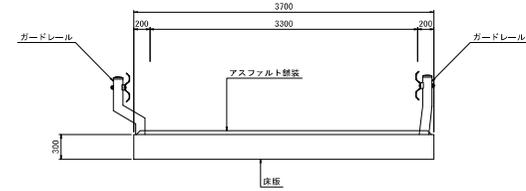
玉笠3号橋			
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業		
路線名等	玉笠3号橋 玉笠3号橋補修工事		
工事箇所	車線町		
図面名	仮設工参考図		
縮尺	図示	図番番号	15 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	有線町 建設課		

既設橋梁一般図 S=1:50

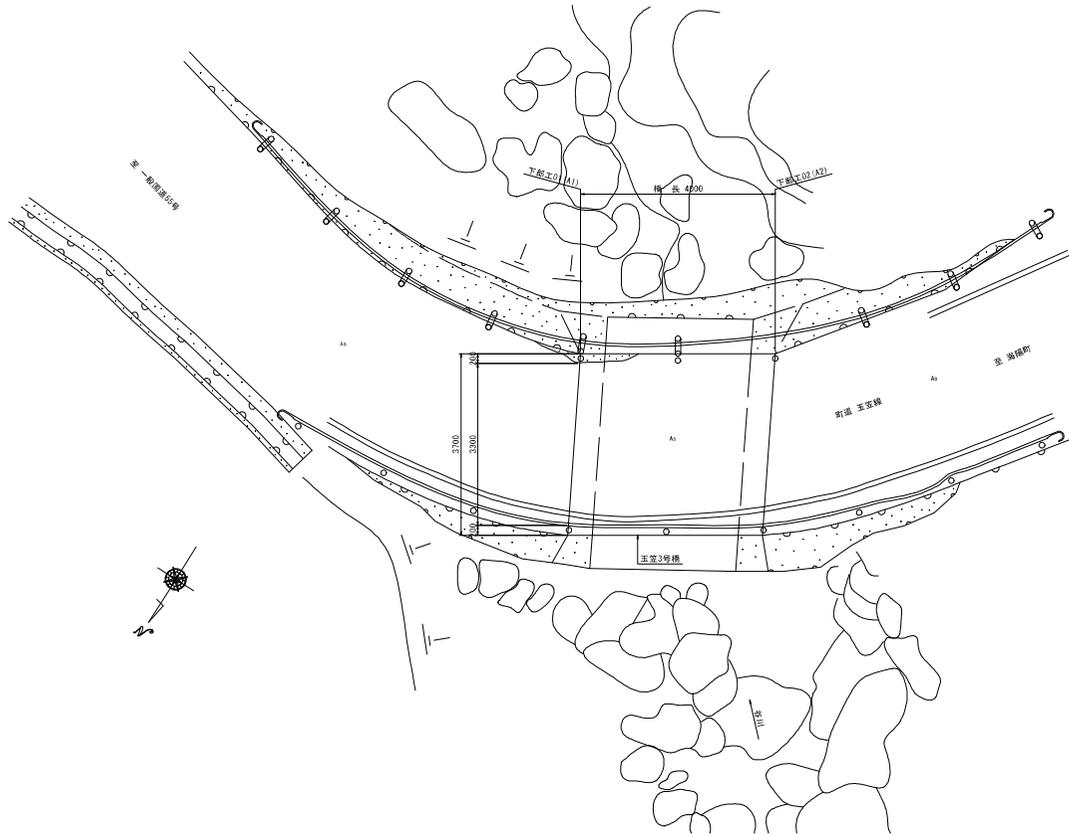
側面図



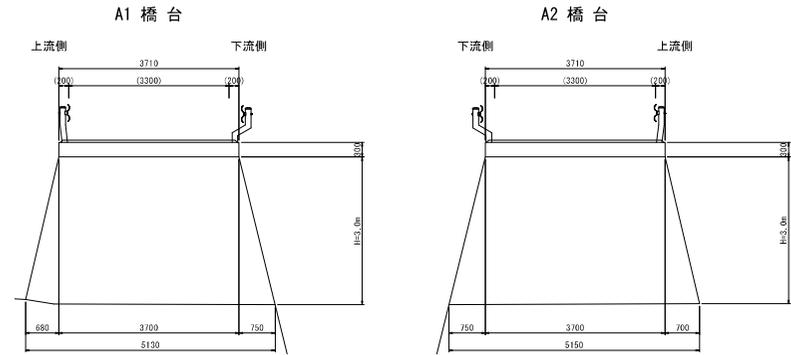
断面図 S=1:30



平面図



正面図



寸法表示の内、()表示は道路直角方向の寸法を示す。

現橋諸元

路線名	町道 玉笠線
橋名	玉笠3号橋
架設年度	1960年(昭和35年) 昭11
自動車荷重	二等橋(1L-14.1T) 昭11
上部工	形式 鉄筋コンクリート麻痺床版橋 橋長 4.000m 有効幅員 3.300m 全幅 3.700m 舗装 アスファルト舗装
下部工	橋台形式 重力式橋台 基礎形式 直接基礎
適用基準	昭和31年(1956)コンクリート標準示方書 昭11

※1 道路台帳および構造点検調査より抜粋

玉笠3号橋			
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業	玉笠3号橋 玉笠3号橋修繕工事	
路線名等	町道玉笠線	玉笠3号橋修繕工事	
工事箇所	牟婁町		
図面名	既設橋梁一般図		
縮尺	図示	図面番号	16 / 16
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町	建設課	